

# 令和元年度 学校評価

秋田県理容美容専門学校

## 1. 学校の教育目的

美容技術を教授・指導し、専門的知識と技能を修得させ、美容師を養成する。

## 2. 学校の教育目標・育成人材像

- ・職業人として必要な学力・技術を身につけさせる。  
特に国家試験合格のための学力・技術の修得を目指す。
- ・社会人として必要な礼儀を弁えた人間を育てる。  
特に挨拶・言葉遣い、他人に対する心遣いを養う。

## 3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 生徒の自主性・社会性を育てる。
- (2) 国家資格取得の重要性を意識させる。
- (3) 本校の活動を地域に周知する。

## 4. 評価項目の達成及び取組状況

### (1) . 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 学校の教育目標・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・B 学校の教育目標・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・C 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

### (取組状況・成果・課題)

- A 学校として、明確に定めている。(前述1・2のとおり。)
- B 学校行事や説明会、入学後のオリエンテーション等で、本校の方向性について説明している  
保護者においては、入学式にて必ず周知を図っている。
- C 業界の求める育成人材像に近づけるために、ガイダンス等を通して、毎年、数社の業界の先生等と意見交換・情報交換をしている。努めてはいるが、不足しているところがあると考える。

### (改善策)

- C ガイダンス等を通して、業界の先生等と意見交換・情報交換をし、今の現状を踏まえ、業界の求める育成人材像に近づけるよう、まずは教員の連携を密にし、日々の学校生活全般において、繰り返しの指導を行っていきたい。

(2) . 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・D 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・F 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A・B 本評価冒頭の目的、目標を軸とし、学校の方針、計画等、教職員間で協議を重ねている。
- C 校務分掌を毎年確認し、確実に実行できるよう明確化に努めている。限られた教職員数でいかに効率よく機能しているかを分析することが課題である。
- D・E 問題なし
- F 情報システム化による業務の効率化は年々効率的になっている。

(改善策)

- C 校務分掌が効率よく機能しているかを分析するためには、機能している状況を把握することが必要であることから、教職員から教頭への校務分掌に関する報告・連絡・相談を密にする必要がある。残念ながら、本校教員に学校業務に関しての経験年数が少ないためなのか、基礎的な部分におけるスムーズな「報告」・「連絡」・「相談」が出来ていないことが多いと感じる。教員の毎日の打ち合わせ・職員会議等を通じて、その都度、繰り返し有効に機能するよう努め、改善していかなければならない点である。

(3) . 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 教育目的等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・B 教育目的・目標、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・D 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・E 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・F 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・G 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・H 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A・B 教育目標や学校規定に定められている修業年限、教育到達レベル、学習時間の確保においては明確に定められている。万全の体制である。
- C 各教科の指導計画案（シラバス）に添って策定がなされている。
- D 毎年1週間の期間を設け、市内数社に依頼し、2年生のインターンシップ・サロン実習を実施し、評価を得ている。今年度においては、実習先を昨年度より3社増やして行うことができた。各サロン様のご厚意により生徒にとっても有意義なサロン実習となった。
- E 学則・内規等で明確に定められている。
- F 特に色彩検定、JNEC ネイリスト技能検定試験、JNA ジェルネイル技能検定試験、エステティックディプロマ、メイクアップディプロマに対して単位授業としてカリキュラムを組んでいる。生徒の検定合格率に関しては、その年によってバラつきが見られる。全員が資格取得できるよう指導に力を入れたい。
- G 規定条件に見合うよう業界の経験年数、勤続年数を十分に積んでいる教員数の確保ができています。（常勤・非常勤共に）

H 校外の研修だと、遠方での研修が多く、頻繁に参加することができないので、校内の研修に力を入れたい。実技に関しては、毎年、定期的に校内研修を行っている。また、国家試験対策として、教員間でのズレが生じないように、細部の確認等を十分に協議を行っているが、その他のことに関しての研修の機会がほとんどないので、校外で受講した研修の報告会を行いながら、全教職員の能力開発に努めたい。

今年度の参加した校外研修

- ・ 7月 日本理容美容教育センター主催 教員資格認定研修会
- ・ 8月 JNA ジェルネイル技能検定「初級認定試験官」養成講座 受講
- ・ 9月 日本理容美容教育センター 東北地区理容美容学校教職員研修会
- ・ 10月 独立行政法人 日本学生支援機構 業務研修会
- ・ 10月 全国専修学校各種学校総連合会 東北ブロック大会
- ・ 2月 日本理容美容教育センター まつ毛エクステンション指導者養成研修会

(4) . 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・A 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・B 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・C 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 毎年2年生の4～5月に集中的にガイダンスを行っている。今まで、就職希望者においては、100%となっているが、今年度は異業種への進路変更等がみられた。年々減少している生徒数＝業界全体も理美容師が減少している現状において、各サロン様にも協力を頂き、会社説明だけでなく、サロン現場の生の声を聴くことにより、理美容業界の現実に触れたり、就職後のイメージを身近に感じたりすることが、就職への意識改革となるのではないかと考えている。就職に向けて意識を持たせるよう指導していきたい。
- B 国家試験については、実技・筆記ともに全員合格100%を達成することができた。ここ4年程、筆記については毎年100%を達成している。これについては、ほぼ指導体制が確立されていると考える。
- C 年々退学率は低減しているが、今年度は2学年で2名、1学年で1名の退学者が出ってしまった。理由は進路変更や目的意識の喪失が主な原因となっているが、近年の傾向として、心理的な要因が長期欠席につながり、他学生との実力の差が出てしまい、それによる意欲喪失も1つの要因となっている。

D 就職先より卒業生の情報を得られている。ガイダンス等を通じ、就職先との交流もなされている。また、ほとんどの卒業生が学校との連絡をとってくれるため、情報を得られる体制となっている。

今年度は、全国理容美容学生大会の東北地区大会へ参加した。ワインディング部門へ5名、ヘアデザイン画部門へ1名が参加した。ヘアデザイン画部門は金賞を受賞し、全国大会へ出展された。また、総合技術の授業において行ったフォトコンテストへの出品作品が、全国で準優勝、人気投票賞を受賞する等、いろいろな分野での活躍がなされた。在校生にとっても非常に良い刺激となった。今後もいろんな分野での活躍を推進していきたい。

(改善策)

C 目的意識の喪失、やる気を失うということのないよう生徒を導けるよう努力したい。

#### (5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・B 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・C 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・D 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

A・B 担任制をとっているため、個人面接、教頭を交えた三者面談等で対応している。

就職支援に関しては、2年生の4月～5月に企業と連絡を取り合い、校内でのガイダンスを行っている。特に県外希望の生徒に関しては、企業の話を持直接取得できるので、交通費などの無駄がなく、就職活動を行うことができる。

C 週1回、カリキュラムとして体育の授業を通して、健康増進を図っている。他、年1回の健康診断を行っている。

D 主に担任と保護者との連携は常になされている。特に、欠席、遅刻者に対しては、保護者への連絡を密にとっている。それにより、担任と保護者の両方で生徒のことを把握できるため、問題解決しやすくなっている。次年度も継続していきたい。

(6) . 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・C 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 美容師養成施設指定規則に則った施設・設備となっている。
- B 学校閉鎖期間や学校行事の日以外、生徒が自主練習できるよう放課後・土曜日・長期休暇等学校を開放している。インターンシップに関しては、県内の企業の協力を得て、ここ数年、2年生が5日間のサロン実習を行っている。就職へ向けての大きな自信につながっているようだ。海外研修に関しては、10数年前よりヨーロッパのカット研修を主として行ってきた。1週間の研修ではあるが、普段とは違う異国での体験は、今後の美容人生において、とても、有意義な研修となっているようだ。生徒にとって自信となったり、有意義な経験となったりするよう検討を重ねながら、次年度も引き続き、様々な経験ができるような機会を提供していきたい。
- C 毎年、同法人の高校と一緒に大規模な避難訓練を行い、災害に対して万全を期している。

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・C 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 学校のHP、パンフレット等を通し、適正な広報となっている。県内の高校を訪問し、高校の先生から頂いた意見も参考にしながら、募集活動に活かしている。学校で決定した媒体を通して、高校生に直接説明ができているのは大きな成果となっている。また、今年度よりインスタグラムの発信を強化している。ニーズに合った発信ができるよう今後の広報活動に活かしていきたい。
- B 成果の伝達については、ガイダンスや体験入学等を通して、教員・生徒が忌憚のない意見を述べている。特に体験入学時、在校生と体験者(高校生)での意見交換等については、とても参考になる事項が多い。得られた意見を募集活動がさらに良くなるよう、もっと活用していきたい。
- C 入学金・教育充実費・授業料・教材費等近隣県の他校と照らし合わせても妥当なものとなっている。

(8) . 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・ B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・ C 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・ D 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

A・B・C・D 特に問題なし。毎年、財務に関して問題はない。継続していきたい。

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・ B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・ C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・ D 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 法令・専修学校設置基準・養成施設指定規則等の遵守と適正な運営に努めている。
- B いかなるデータも学校外への持ち出しは禁止している。また、外部への漏洩はもちろんコンピューターのウイルス感染等にも細心の注意を払っている。
- C 毎年、自己評価を行い、職員との共通認識の元、改善点を検討し、対応を図っている。すぐに解決しない問題があれば、少しずつ対策を施していく。
- D 今年度より自己評価結果の公開については、ホームページで公開している。

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ A 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・ B 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の 受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

- A 各方面より依頼のある社会的活動に対してはできる限りの対応をし、支援している。企業からの依頼に関して、学生の希望者を募り、美容業の PR を兼ねて、ボランティア活動を幅広く行っている。学生にとっても、将来に向けて、とても良い経験となっている。
- B 公共職業訓練に関しては、H22 年から実施している。約 80 人の受講者を受け入れている実績がある。今年度より 2 年コースの委託訓練も実施している。公共職業訓練の方々の方々の就職は、訓練内容の専門性から難しいことが多いが、今年度は資格取得率・就職率が非常に良かったので、次年度も訓練の方々の方が就職できるよう万全の体制でサポートしていきたい。

○本年度の重点目標の取り組みについて

(1) 生徒の自主性・社会性を育てる。

本校では、就職後、社会に出てからのことを常に念頭において生徒指導を行っていることから、自主性・社会性を育てる指導については、教員間で十分に話し合いを行っている。美容業界の現場の声として、「挨拶」、「人とのコミュニケーションの重要性」、「『報告・連絡・相談』の必要性」、「自分から気付く力を養う（指示待ち人間ではダメ）」等、2年間の学校生活において、繰り返しの指導が必要となってくる。教員間での共有事項として取り組みを行っている。

(2) 国家資格取得の重要性を意識させる。

入学当初より、①養成施設の卒業、②国家資格の取得については、一番の重要事項として学生のみならず、保護者へ向けても説明をしている。2年間専門の知識を勉強することから、資格を取得するのは当然と考える。令和元年度卒業生に関しては、東北で唯一100%の合格率を達成した。来年度も引き続き指導に力を入れたい。

(3) 本校の活動を地域に周知する。

ホームページや SNS、インスタグラム等での発信を行っている。生徒のボランティア活動としては、県内企業からの要請として、

- ・秋田ノーザンハピネッツ 試合会場来場者への子供向けヘアアレンジ
- ・(株) プレステージインターナショナル秋田 社内行事来場者への大人向けジェルネイル、子供向けヘアアレンジ&メイク
- ・(株) 東北企画 監修 秋田テレビ・秋田朝日放送による CM 撮影へのお協力

本校の発表会として、毎年、2年生の卒業制作である「アキリビコレクション 2019」（於 アルヴェ）の発表等地域の方へ広く周知を行っている。